

PONO KIDS鎌倉 令和7年度 児童発達支援 事業所評価結果報告書

事業所名: PONO KIDS鎌倉

所在地: 神奈川県鎌倉市

サービス種別: 児童発達支援

評価実施日: 令和7年12月

改善検討会議: 令和8年3月7日

公表日: 令和8年3月

1. 回答状況

区分	対象	回答数
保護者評価	利用児童の保護者	4名
従業者評価	事業所職員	7名

2. 評価結果と事業所の対応

環境・体制整備

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
スペースの適切さ	3/4 (75%)	6/7 (86%)	現状維持
職員の配置数	3/4 (75%)	6/7 (86%)	現状維持
環境の構造化・バリアフリー	2/4 (50%)	2/7 (29%)	改善困難
清潔さ・過ごしやすさ	3/4 (75%)	6/7 (86%)	現状維持
個別スペースの確保	—	4/7 (57%)	現状維持

改善検討の結果:

当事業所は2階に所在しており、階段のみのアクセスとなっている。

利用対象児童の特性上、支援提供に支障は生じていない。

生活空間は毎日清掃を実施し、空気清浄機・加湿器の導入により清潔で快適な環境を保っている。個別対応が必要な場合は相談室を使用している。

業務改善

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
PDCAサイクルへの職員参画	—	6/7 (86%)	現状維持
保護者評価の活用	—	5/7 (71%)	現状維持
職員意見の反映	—	5/7 (71%)	現状維持
第三者評価の実施	—	1/7 (14%)	改善困難
研修機会の確保	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

子どもへの目標設定や関わり方については、個別支援計画の見直し時のみならず日常的に議論する機会が設けられている。職員間で意見を出し合える環境が整っており、業務改善につなげている。第三者評価については費用・体制面から現時点では実施困難である。研修は毎月実施しており、入職間もない職員に対しても研修時間を確保し、リストに基づいた体系的な学びの機会を提供している。

適切な支援の提供

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
支援プログラムの作成・公表	4/4 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
個別支援計画の作成	4/4 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
計画の職員間共有	—	7/7 (100%)	現状維持
5領域に基づく支援内容	—	6/7 (86%)	現状維持
プログラムの固定化防止	4/4 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
計画に沿った支援の実施	4/4 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
モニタリング・計画の見直し	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

活動プログラムはカレンダーで保護者へ周知している。プログラムはスタッフ個人が作成するのではなく、チームで話し合いながら立案し、実施後は感想や気づきを共有している。職員間で疑問点をその都度確認・すり合わせすることで共通理解を図っている。Vineland-II等の標準化されたツールを活用したアセスメントも実施している。

関係機関との連携

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
相談支援事業所との連携	—	5/7 (71%)	現状維持
地域関係機関との連携体制	—	5/7 (71%)	現状維持
インクルージョン推進	—	6/7 (86%)	現状維持
就学時の情報共有	—	6/7 (86%)	現状維持
地域交流の機会	3/4 (75%)	4/7 (57%)	現状維持

改善検討の結果:

公園への外出時に地域の子ともと交流する機会がある。PONOフェスはオープン開催とし、地域へ向けた発信の場としている。保育園等との日常的な連携（送迎時のコミュニケーション等）を通じて、支援に関する共通理解を深めている。

保護者への説明・家族支援

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
運営規程等の説明	4/4 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
計画の説明と同意	4/4 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
日常的な情報共有	4/4 (100%)	6/7 (86%)	現状維持
面談・助言の実施	4/4 (100%)	5/7 (71%)	現状維持
保護者同士の交流機会	3/4 (75%)	6/7 (86%)	現状維持
共感的支援	4/4 (100%)	—	現状維持
苦情対応体制	4/4 (100%)	7/7 (100%)	現状維持
情報発信	4/4 (100%)	2/7 (29%)	改善検討

改善検討の結果:

家族イベントを通じた交流機会を設けているほか、家族支援の場での相談には迅速に対応し、必要な情報提供を行っている。PONOフェスの開催等により、地域に開かれた事業所運営を心がけている。情報発信については、HPのリニューアルおよびLINEによる日常的な発信を行っているが、従業者の認知が不十分であった。自社の情報発信状況を社内でも周知するとともに、LINEのリッチメニューを活用した情報提供の充実を図る。

非常時の対応・安全管理

設問	保護者「はい」	従業者「はい」	事業所対応
マニュアルの策定・周知	3/4 (75%)	7/7 (100%)	現状維持
避難訓練の実施	3/4 (75%)	—	現状維持
BCP策定・訓練	—	5/7 (71%)	現状維持
安全計画の周知	3/4 (75%)	4/7 (57%)	現状維持
事故時の説明	3/4 (75%)	—	現状維持
ヒヤリハット共有	—	6/7 (86%)	現状維持
虐待防止研修	—	7/7 (100%)	現状維持

改善検討の結果:

訓練（研修を兼ねる）を定期的実施している。服薬等の情報は児童票への記載により確認し、支援員への周知を図っている。けが等への対処法はマニュアルに明記している。インシデント発生時はヒヤリハット報告書を作成し、支援員間で共有することで再発防止策を検討している。身体拘束については、プログラムおよび個別支援計画の備考欄に記載している。

3. 保護者からのご意見（抜粋）

- 行き渋りがある時は安心できる支援員さんが対応してくれ助かった。
- 運動療育と事業所が分かれたので、バランスのいい支援をいただけている。
- 通っている曜日により、もう少しお友達と関われる機会があるとよい。
- 保護者会が年1回なので、回数を増やしていただけると嬉しい。

4. 今年度の主な改善事項

1. **情報発信の改善** — LINEのリッチメニューを活用し、活動情報・マニュアル・災害対策等を保護者がいつでも確認できる体制を整備する。併せて、自社の情報発信状況を支援員にも社内周知する。
2. **保護者交流機会の拡充** — 保護者会の開催回数の増加を検討する。
3. **安全計画の周知強化** — 安全計画に基づく取組内容をLINEのリッチメニューに掲載し、保護者への情報到達を確実にする。

5. 補足事項

バリアフリーについて:

当事業所は2階に所在しており、階段のみのアクセスとなっている。

利用児童の障害特性に応じた視覚支援（スケジュールの視覚化、環境の構造化等）は日常的に実施しており、情報伝達上の配慮は適切に行っている。評価項目における「バリアフリー」の文言が物理的な身体障害対応を想起させるため、従業者評価で「いいえ」が多くなる傾向があるが、当事業所の利用対象児童の特性上、階段アクセスが支援提供の支障となるケースはない。

情報発信について:

HPは令和7年度にリニューアル済みであり、事業所の情報発信はHP及びLINEを主たるチャンネルとしている。

SNS（Instagram等）による発信は、撮影・アップロードに係る支援員の業務負荷（児童を見る時間の圧迫）、および児童の個人情報保護の観点から、現時点では積極的な運用を行わない方針としている。従業者評価で情報発信に関して「いいえ」「わからない」が多かったのは、発信を行っていないのではなく、支援員が自社の発信状況を十分に把握していなかったことによるものである。今後は社内での情報共有を強化し、自社がどのような情報発信を行っているかを支援員にも周知する。

個別スペース（相談室）について:

従業者評価において相談室の物品が多い旨の指摘があったが、評価実施後に整理を行い、児童が安全にクールダウン等で使用できる状態に改善済みである。

支援前後の打合せについて:

出勤時間や送迎業務の都合で、支援開始前の対面打合せや支援終了後の振り返りが困難な場合がある。これに対し、支援内容や役割分担は事前にChatworkで共有し、支援終了後の振り返り・気づきもChatworkの日報で全支援員に共有する仕組みを構築している。対面での打合せが困難な場合でも情報の欠落を防ぐ体制が整っている。

保護者との定期面談について:

全事業所において、モニタリング面談に加え、家族支援として定期的な面談の仕組みを設けている。

苦情対応について:

従業者評価において「無記名の申し入れがあり、保護者が意見を伝えにくい状況ではないか」との指摘があった。当該申し入れについては把握後速やかに対応済みである。今後も無記名を含む多様な意見提出手段を維持し、保護者が意見を伝えやすい環境を確保する。

評価結果の事業所間差異について:

当法人では桜山・鎌倉の各事業所で同一の運営体制・業務フローを採用している。従業者評価における自由記述の量や具体性に事業所間で差が見られるが、これは支援の質の差ではなく、評価記入に対する個々の職員の記述量の違いによるものである。